

第6回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ 結果報告

○下水道場とは

- 下水道関係組織においても行政改革に伴う職員採用の抑制や経験豊富な職員の退職等により、技術やノウハウの継承が問題となっている。
- 一方で、事業量の減少や民間への業務委託の増加により、若手職員は自らの組織の業務だけでは十分な知識、情報を得ることが難しい状況となっている。
- このような状況に鑑み、平成 24 年 9 月、国土交通省によって、下水道事業の持続的・安定的な運営や一層の発展のため、若手職員同士が交流し、お互いの悩みや検討課題を相互に相談する場として「下水道場」が設立された。
- 本県では、平成 28 年 9 月に「やるばい長崎下水道場」を設立し、市町若手職員同士のネットワーク形成・スキルアップを図るとともに県内の下水道事業のさらなる発展を目指して取り組んでいる。

第6回 やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～ を以下のとおり開催しました。

○日時：令和4年10月19日（水） 13：45～17：00

○場所：シーハット大村 さくらホール

○対象：長崎県内下水道若手（概ね40歳以下）職員

○参加：長崎県内9市町 21名

○名称：やるばい長崎下水道場～夜景に負けない若手の輝き～

○会次第

講義

1) 管路更生工法における設計・施工について

日本下水道管路管理業協会 井坂常務理事 様

2) 管路の維持管理と最新技術について

日本下水道管路管理業協会 高田技術委員 様

3) マンホール蓋のアセットマネジメントに向けて

日本グランドマンホール工業会 宮中 様

4) 連絡事項

水環境対策課 森崎 係長

講義

1) 管路更生工法における設計・施工について

日本下水道管路管理業協会

井坂常務理事から、管路更生工法における設計・施工について講義をしていただきました。

日本下水道管路管理業協会では、下水道管路に関する管理技術等の調査研究や管理に関する新しい技術の開発を推進し、日本の下水道管路の管理技術向上をめざす事業を実施しています。

数多くある管路の更生工法の種類と特徴を学ぶことができ、今後の維持管理の時代を生きていく若手自治体職員にとっては、発注業務を行う上で重要な知識となるため、とても勉強になりました。



2) 管路の維持管理と最新技術について

日本下水道管路管理業協会

高田技術委員から、管路の維持管理と最新技術について講義をしていただきました。

前半は下水道管路の現状や老朽化の事例、維持管理方法、事故・トラブル事例について学びました。下水道の維持修繕の責務は下水道管理者にありますので、この講義によって管路の維持管理に関する危機意識が深まりました。

後半は下水道台帳の電子化や AI、ドローンによる管路調査などの最新技術について学びました。最新技術を自治体に取り入れることが今後の効率的な下水道事業の運営に欠かせないということがわかりました。



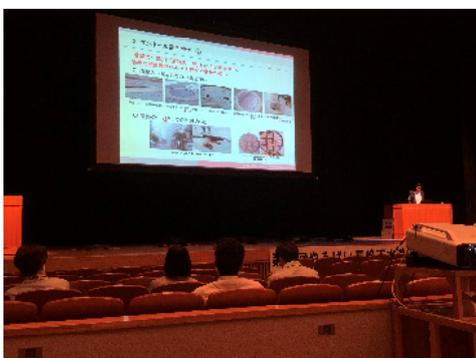
3) マンホール蓋のアセットマネジメントに向けて

日本グランドマンホール工業会

宮中様から、マンホール蓋のアセットマネジメントについて講義をしていただきました。

日本グランドマンホール工業会では、マンホール蓋の設計基準の統一と安全な製品の普及を目的に事業を実施しています。

前半はマンホール蓋の基礎知識や特性、事故・具合の事例、マネジメントの方法について学びました。日頃よく見かけるマンホールですが、近年のマンホール蓋にはロックがかかっており、浮上・飛散防止機能や転落防止機能が備え付けられており、滑り止めや



騒音がならない工夫が施されているということがわかりました。

後半は実際にマンホール蓋の開閉演習を行っていただきました。これまでの歴史の変化により特徴の異なるマンホール蓋を間近で見ることができ勉強になりました。また、災害が発生した際には、普段の業務では開閉を行わないような自治体職員も数多くのマンホール蓋を開けて点検を行う必要があるため、この機会に習得することができてとても良い経験となりました。



4) 連絡事項

水環境対策課

森崎係長から、国土交通省から発出される事務連絡に関する重要事項について説明を行いました。下水道業務に関連の深い事務連絡の解説や災害発生時の速やかな被害報告について依頼を行いました。

最後に....

第6回下水道場では、翌日に同じ会場で実施された「下水道管更生技術施工展2022長崎」と共同開催という形で実施しました。「初めて学ぶ内容が多くあり勉強になった」という意見や「同じ県内の下水道に携わる人達と同じ時間を共有できたことで、今後の業務にもプラスになる」という意見がありました。一方、「夜の下水道場（意見交換会）を開催してほしい」という要望も多くありました。

翌日は1,500人を超える来場者を迎えるなど、充実した2日間となりました。今後も若手の力で長崎県の下水道を盛り上げるために、下水道場を継続していきます。

